



みなさまこんにちは。毎日寒い日が続きますが、お元気でお過ごしでしょうか。浜通りは、風が強い日が多く乾燥でバリバリに乾いています。この季節は手も荒れ放題、かかともガサガサで憂鬱な方も多いかと思えます。しかし、この季節だからこそできることがありました！そうです、虫干しです！虫干しに適した時期は年に3回といわれています。7月下旬から8月頃の土用干し、10月下旬から11月頃の虫干し、そして、1月下旬から2月頃の寒干しですが、1年の中で最も湿度の低いこの季節が虫干しを行って着物に風を通すのに最も適した時期になります。この時期に湿気を取り除くことで、春と夏の湿気の取り込みに備えることができます。2日続けて晴れた日の翌日が適していて、時間帯も10時～15時までの間がベストです。16時までには畳んでしまいましょう。日光が直接当たらないところに2時間くらい吊るしておけば充分です。あまり長く吊ると型崩れや裾の袋の原因になってしまいますので注意して下さい。着物を保管するのに一番いいのは虫干しです。着物は、湿気によってカビや黄変、裾の袋など、様々なトラブルが起きます。大切なお着物はひと手間かけてでも守ってあげましょう。虫干しや着物の保管法について詳しく知りたい方は、ぜひお気軽にご相談ください。

＜天目染体験会を行いました＞

原町本店にて、京都の高山工房さんにお越しいただき、天目染の体験会を開催しました。どのようにして天目染ができるか、大変興味深い体験会でした。

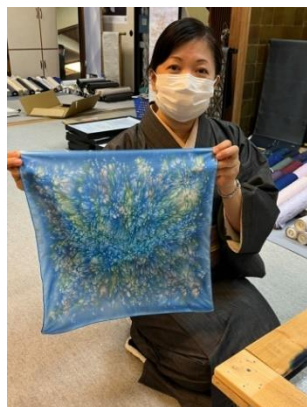


始めにベースになる色を決め、刷毛で染めていきます。何度も重ねていくと、段が消えていきますが、むらなく染めるのは難しいです。

ベースの色が染まったら、別な色を所々に散らすように落としていきます。あちこちに散らばった染料で花火みたいになりました。私は、黄色と紫を使用しました。



ここからが天目染の特徴的な工程になります。京都洛北の北山杉のチップ(挽粉)を染料が乾く前に散らしていきます。まるでお料理の塩を振るかのように、均等に振りかけていきます。その後、下から熱をあてて乾かします。染料を木のチップに吸わせることで、天目の模様ができます。



完成したハンカチは、天目ならではの不思議な模様になりました。なんだか宇宙を感じます。お客様もみなさんそれぞれ真剣に取り組んでいました。個性あふれる作品が出来上がりました。

熟練の職人さんによる美しい天目染。天目茶碗の中でも最高峰とされる曜変(ようへん)天目茶碗。光の角度によって玉虫色に神秘的に輝くことから「器の中に宇宙が見える」とも評されています。そんな「曜変天目」の魅力を染色で再現し、着物にしようと試行錯誤の末に出来上がったのが天目染めです。

< よろづ屋 きものがたり～琉球紅型～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第14回目は、琉球王朝が育んだ華やかな魅力と歴史ある紅型染

紅型は沖縄の代表的な染物で、京友禅や江戸小紋と並び、日本を代表する染物とされています。鮮やかな色彩、大胆な配色、図形の素朴さが特徴で、顔料と植物染料を使い、多彩な模様を描き出します。かつての琉球王朝は、近隣諸国と敵対せずにより交易することで平和を維持してきました。交易が盛んに行われた15世紀前後に、諸外国との取引でもたらされた染織技術が取り入れられ、王族や士族の衣装として王府の保護を受けて首里を中心に発達したのが紅型です。

「紅型」と総称されるが、彩色の技法で分類すると、赤、黄、青、緑、紫を基調とした色彩が大胆で鮮やかな「紅型」と、藍の濃淡で染め上げる落ち着いた色調の「藍型（イエーガタ）」に分類されます。沖縄の言葉で色を差すことを「イルクペー（色配り）」というそうですが、紅型の美しさはこのイルクペーにあると言われており、顔料と天然染料の両方を用いた彩色の技法も紅型独自のものです。型染めでは、友禅染のように複数枚の型紙を用いて模様を染め上げていくことが一般的ですが、紅型では1つの型紙で糊を置いて防染し、小刷毛で色を差付けていきます。さらには、ほかしまでの染色工程を1枚の型紙で完了させるということです。紅型の色差しは、顔料による



▲色差しの様子

下塗り、さらにもう一度擦りこみし、植物染料による上塗りを行うのが基本です。顔料を多く使いますが、それは沖縄の亜熱帯気候と関わりがあるそうです。植物染料は、強い日差しや高温に弱い。一方、顔料は日差しや高温に強い。さらに顔料は、多様な生地に染着し、長期間、色が変わらないという特性もあり多用されました。ただし、顔料だけでは生地が堅くなってしまい、色調もビビッドになりすぎるそうです。そこで、植物染料を上塗りすることで、柔らかい風合いを出すという技法が編み出されたということです。この色差しには、順序の決まりがあり、朱や黄など紅型の中心となる暖色系からはじまり、臙脂（えんじ）、紫、緑、鼠、最後に黒と差していきます。鮮やかな色彩と華やかな図案は、眺めているだけで南国の空気感が伝わってきます。



▲紅型



▲藍型

鮮やかな色彩、華やかな文様は紅型ならではの！



長持ちさせるお手入れの仕方

頻繁には洗わない着物や小物だからこそ、着たあとにきちんとしたお手入れが必要になります。着物を脱いだらそのまましまうのではなく、ひと手間かけていつまでも大切に着ましょう。

～シミ～

外出先でついてしまったシミは応急処置をしましょう。慌ててこすったり、たたいたりしてしまうと生地が傷んでスレの原因になりますので、絶対にやめましょう。シミは主に水溶性のものと油・脂溶性の2種類に分けられ、それぞれに応じて対処が必要です。

<水溶性の場合>

ジュースやコーヒーなど水溶性のをこぼしたら、乾いたハンカチやタオルなどを着物の裏にあてて、挟むようにして水分を取ります。



シミは応急処置だけではなかなか落ちません。シミをつけてしまった時は、なるべく早く当店にお持ちいただきご相談ください。その際に、シミの原因をお伝えいただければ助かります。

参考文献：着物の辞典 大久保信子監修

<油・脂溶性の場合>

ファンデーションは別珍の布などで軽くなる。ドレッシングやミートソースなどをこぼした場合、汚れが広がらないように、ティッシュでつまみ取ります。

今月のおススメ！



ポリエステル
おしゃれ半衿
1,480円(税込)

今回ご紹介するのは、新柄が入荷したばかりのおしゃれ半衿です。素材はポリエステルなので、ご自宅で簡単にお洗濯もできます。着物のコーディネートがなんとなくマンネリ化していませんか？もちろん、帯揚げ帯締めもコーディネートの重要なアイテムの一つですが、半衿でこれまでの装いに変化をつけてみませんか？衿回りが明るくなると、顔写りも良く、若々しく見える効果もあります。お着物の色に合わせてコーディネートするもよし、全く雰囲気の違いをお色味でメリハリ感を出すもよし、半衿は自分だけのとっておきのコーディネートを楽しめるアイテムの一つです。

小紋柄や、花柄、モダン柄など、きつとお気に入りの一枚が見つかるはず。普段着のお着物におススメのおしゃれ半衿を、ぜひ店頭でお手に取ってご覧ください。お着物を持参して合わせてみるのも楽しいです！

…若女将のつばやき…

先日、きものカラーコーディネート協会(KICCA)が主催する着こなし研究会がオンラインで開催されました。今回は、京都の組紐メーカー「昇苑くみひも」さんの結びのワークショップで、組紐の歴史や基礎知識について学びました。事前に手元に届いていた結びの教材で実際に結びを練習し、最終的に菊結びの根付を作りました。根付は、写真を撮っていないので私が付けているのをぜひ実際に見てくださいね。出来栄はまあまあです！とにかく可愛い紐たちに名前をつけたくくなりました♡ 結ぶって深いな～♪

